

2023 年 1 月 26 日

2022 年度 聖路加国際大学大学院 看護学研究科
課題研究論文

ひきこもり当事者の家族支援の現状と課題に関する
文献レビュー
Literature Review on the Current State and Issues
of Family Support for Hikikomori

21MN030
畠中 ちひろ

論文要旨

【目的】本研究は、ひきこもり当事者の家族への支援の内容と課題を文献から概観し、ひきこもり当事者の家族に対するより良い支援のあり方を考察することを目的とする。

【方法】本研究は JBI によるスコーピングレビュー最新版ガイドライン（沖田ら，2021）を参考に文献レビューを行った。医学中央雑誌 Web 版で家族、ひきこもり、支援に関するキーワードや統制語を検索し、325 件の文献がヒットした。選択・除外基準に則り選定した文献の内容を精読した上で、ひきこもり当事者の家族支援の内容と課題を抜き出し、類似するものを分類した。

【結果】本レビューの対象文献は 13 件であった。支援主体が公的機関であるものは 8 件、公的機関以外であるものは 10 件であったほか、家族会／親の会が扱われているものは 10 件、家族教室／家族プログラムが扱われているものは 6 件という結果であった。さらに、保健師による相談対応が行われているものは 6 件、保健師による訪問対応が行われているものは 2 件であった。また、ひきこもり当事者の家族支援の課題としては、ひきこもりに対する受容的／客観的態度の不足、ひきこもりに関する知識や理解の不足、ひきこもりに関する支援情報の不足、気軽かつ継続的に相談することの難しさ、支援者側におけるスキルやマンパワーの不足、ひきこもり当事者・家族の個別性に即した具体的支援の必要性、社会全体における公的支援の必要性、支援者側における連携体制の脆弱性、法制度上の家族支援の限界、自助活動の安定的な運営に向けた後方支援の必要性に分類された。

【結論】今後は、ひきこもり当事者の家族に対する支援やその重要性について関係機関等で共有することや、支援者や社会全体のひきこもりに対する理解や資源確保を進めることが求められる。保健師間の引き継ぎや、ひきこもり支援に関する事業を計画・創設し、支援体制や資源の拡充を図ることが、公衆衛生看護活動の実践上の課題として示唆された。